

「スマート農業の実現に向けた研究会」の設置について

平成25年11月26日
農 林 水 産 省

1. 趣旨

我が国農業の現場では、担い手の高齢化が急速に進み、労働力不足が深刻となっており、農作業における省力・軽労化を更に進めるとともに、新規就農者への栽培技術力の継承等が重要な課題となっている。

他方、異業種ではロボット技術や人工衛星を活用したリモートセンシング技術、クラウドシステムをはじめとしたICTの活用が進展しており、農業分野への活用が期待される場所である。

このため、ロボット技術やICTを活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業（スマート農業）を実現するため、スマート農業の将来像と実現に向けたロードマップやこれら技術の農業現場への速やかな導入に必要な方策を検討する「スマート農業の実現に向けた研究会」（以下「研究会」）を設置する。

2. 主要検討課題

- (1) スマート農業の将来像と実現に向けたロードマップ（解決課題と対応）
- (2) ロボット技術安全性確保策
- (3) ロボット技術、ICTの活用に係る公的研究機関、異分野の民間企業等の連携
- (4) その他

3. 検討体制

- (1) 省内に研究会を設置し、ロボット技術・ICTに係る関係者（研究機関、学識経験者、関係企業、先進農業者、関係省庁等）の参画の下で主要検討課題の検討を行う。
- (2) 必要に応じ、ワーキンググループを設置する。
[「将来像WG」と「ロボット技術安全性確保策WG」を想定]
- (3) 主査を技術総括審議官が、事務局を生産局技術普及課（生産資材対策室）が担当する。
- (4) 会議は非公開とする（会議の開催、議事概要等は公表）。

(別紙)

各ワーキンググループの構成案

	将来像WG	ロボット技術安全性 確保策WG
1. 研究機関 産総研 農研機構	○	○ ○
2. 学識経験者 澁澤教授 野口教授	○	○
3. 農機メーカー 井関農機 クボタ 三菱農機 ヤンマー	○ ○ ○ ○	○ ○
4. ロボット先行業界 トヨタ自動車 三菱電機	○ ○	○ ○
5. IT企業 日本電気 NTT 日立ソリューションズ 富士通	○ ○	○ ○
6. 先進農業者 高崎氏 三浦氏	○	○
7. 生産者団体 全農	○	
8. 保険業 東京海上日動		○
9. 関係省庁 内閣官房 内閣府 総務省 厚労省 経産省	○ ○ ○ ○	○ ○